あなたも委託研究員として実践研究を行いませんか？

～平成３０年度委託研究員経験者の声～

一般財団法人 日本私学教育研究所

〒１０２－００７３

東京都千代田区九段北４－３－８　市ヶ谷UNビル６階

Tel:03-3222-1621　Fax:03-3222-1683

委託研究に関する詳細は当研究所のHPでも確認することが出来ます。

http://www.shigaku.or.jp/study/index.html

私学教育の更なる発展のためにあなたも実践研究を行いませんか

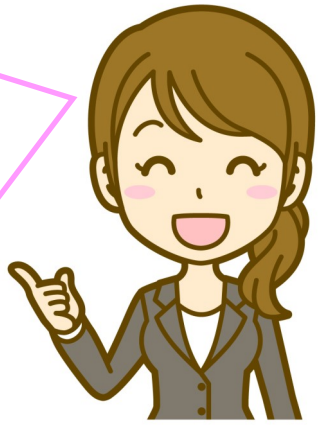
～委託研究員経験者の声～

委託研究員募集の案内が来たけれども、委託研究員とはそもそもどのような制度なのだろう。

委託研究員は私学教員として日々の校務をこなしながら、実践研究を行う制度で、毎年全国の私立小学校・私立中学校・私立高等学校・私立中等教育学校の教職員の中から募集しており、国の補助金と日本私立中学高等学校連合会の負担金からなる「研究費」も支給されます。

研究成果は研究所が発行する紀要に報告書を掲載し、年度末には「委託研究員研究成果報告会」で研究成果を発表することで、全国の私立学校の教育の発展に寄与しています。

実際に委託研究員を経験された先生方の声を掲載いたしますので、ぜひ参考にしてみてください。また、研究成果報告会についてもご紹介いたします。



～平成30年度委託研究員をされた先生方からのコメント（次ページから）～

- 早稲田大学本庄高等学院（埼玉県）　成瀬　政光　先生
- 駒澤大学高等学校（東京都）　長谷川　宏一　先生
- 愛知中学・高等学校（愛知県）　五十嵐　真人　先生
- 東山中学・高等学校（京都府）　中村　憲幸　先生
- 育英西中学・高等学校（奈良県）　長谷川　成実　先生
- 都城東高等学校（宮崎県）　片岡　伸児　先生
- 鹿児島育英館中学・高等学校（鹿児島県）　吉田　美和子　先生

平成30年度　委託研究員経験者の声

早稲田大学本庄高等学院（埼玉県）　成瀬 政光　先生

研究テーマ

高等学校数学科にて深い学びを促すための
アクティブラーニング教材に関する研究・実践

Q：委託研究員の制度をどこで知りましたか

元委託研究員の同僚からの紹介

Q：委託研究員に応募した理由をお聞かせください

これまでも自分なりに研究をしてきましたが、もう1ランク上の研究をすすめるためです。特に私立学校としての研究に焦点を絞ることができると思ったためです。

Q：研究活動を通じて生徒・学校・自分にとって良かった点はありましたか

研究を通じて設計した授業によって、生徒の学習意欲を向上させることができました。研究面では、参加した学会にて様々な意見交換が出来たことが最も大きいです。また本研究の成果を冊子として作成することができましたがそれが同僚と学内でも議論するきっかけとなりました。

Q：委託研究員としての1年を終えての感想をお聞かせください

委託研究員として、出会いと学びが多い一年だったと思います。最後の成果報告会では他校の実践例を見ることで、次の研究に結びつけることが出来ました。特に、アクティブラーニングとは何か、ということを深く考えるきっかけとなりました。

Q：次年度以降の委託研究員にメッセージをお願いいたします

新しいチャレンジを叶えてくれる制度だと思います。委託研究をスタート地点として、研究を深めてください。1年間の研究を経ることで、これからの教育について違った景色が見られると思います。

平成30年度　委託研究員経験者の声

駒澤大学高等学校（東京都）　長谷川 宏一　先生

研究テーマ

地理・地学が連携した野外実習における
主体的学習を促す教材開発

Q：委託研究員の制度をどこで知りましたか

職員室内の回覧

Q：委託研究員に応募した理由をお聞かせください

教育活動において発展的に取り組みたい課題があったから。

教育活動を高め続ける意識を持ち続けるため。

Q：研究活動を通じて生徒・学校・自分にとって良かった点はありましたか

本校の特徴的な教科横断型の教育活動である箱根巡検という野外授業を、新たな教材を用いて活性化することが出来ました。主体的活動も理解度も増したと感じます。よりアクティブな活動にすることが出来ました。

Q：委託研究員としての1年を終えての感想をお聞かせください

「やらなければ」というプレッシャーもありましたが、自己を高める良い機会となりました。今年作れた「種」をさらに発展させられるよう、研究を継続していきたいと思います。

Q：次年度以降の委託研究員にメッセージをお願いいたします

多忙とは思いますが、挑戦できる機会を得たと思い、共に日本の教育のために力を出せればと思います。教育にどんどん特徴を出せる私学だからこそ、このような制度を利用し「強み」を作れると良いと思います。

平成30年度　委託研究員経験者の声

愛知中学・高等学校（愛知県）　五十嵐 真人　先生

研究テーマ

アカデミックライティング・
アカデミックプレゼンテーション指導

Q：委託研究員の制度をどこで知りましたか

元委託研究員の同僚からの紹介

Q：委託研究員に応募した理由をお聞かせください

本校で取り組みはじめたアカデミックライティング・アカデミックプレゼンテーションの個別指導を「トビタテ！留学JAPAN高校生コースアカデミック（ロング）」の合格生にすることで、今後の指導上の大きなヒントが得られると思ったからです。

Q：研究活動を通じて生徒・学校・自分にとって良かった点はありましたか

生徒は3月1日の卒業式後、「この研究と先生との出会いのおかげで高校を卒業でき、将来を見据えて大学とその先へ進んでいくことができる」と言ってくれました。学校や自分としても、大学視察を通じてアカデミックセンター設立の意義を認識させていただき、次の課題へ向けて精進してゆきたいと思いました。

Q：委託研究員としての1年を終えての感想をお聞かせください

当初、アクティブラーニングをテーマとしていたこの委託研究に自分が選ばれるとは思っていませんでした。指導対象者も1名で、このケーススタディの結果がどうなるのか不安でした。ですが、様々な方々とのご縁を頂戴し、自分の知らなかったことを知ることの楽しさを学生のように感じることができました。

Q：次年度以降の委託研究員にメッセージをお願いいたします

この委託研究の研究費で購入させていただいたアカデミックライティング関連の書籍を元に、新しくアカデミックセンターを設置しようという目的が私にはできました。次なる教育へのキーストーンになるこの委託研究を活かし、キャリアアップと社会貢献へ歩みを進めていかれてください。

平成30年度　委託研究員経験者の声

東山中学・高等学校（京都府）　中村 憲幸　先生

研究テーマ

英語４技能を向上させる

アクティブラーニング型授業

Q：委託研究員の制度をどこで知りましたか

研究所の主任研究員からの紹介

Q：委託研究員に応募した理由をお聞かせください

昨年本校でアクティブラーニング実践報告会を行った際に、研究所の主任研究員がお越しになり、授業を見学していただきました。その後の昼食会にて研究員とお話をさせていただき、委託研究員制度のお話を伺いました。最初は悩んでいましたが、自分の授業を改善・向上させるために応募させていただきました。

Q：研究活動を通じて生徒・学校・自分にとって良かった点はありましたか

研究活動を通じて授業デザインについて今まで以上に考えを巡らすことができました。また、私が委託研究員をさせていただいたことで同僚も興味を持つようになりました。生徒にとっては、どの教科でもなかなか取り組めていない論の構築や気付きについての作文、自分の意見を述べるという機会を持つことができたので、非常に濃密な一年となりました。

Q：委託研究員としての1年を終えての感想をお聞かせください

研究成果報告会での発表を終え、正直ホッとした気持ちがある一方で、素晴らしい先生方の研究成果を聴く度に次年度の自身の取り組みに想いを馳せています。この経験が無ければ果たしてこの一年はどうなっていたんだろう、と思う程充実していました。大変貴重な機会を与えていただき本当に感謝しています。

Q：次年度以降の委託研究員にメッセージをお願いいたします

私は最初「研究員」と聞いて委縮していましたが、分からないことがあっても研究所の係の方から親身に御助言いただき、安心して研究に集中することができました。また、この経験からは沢山のことが得られると思いますので、この機会にとことん自分の研鑽もかねて研究に邁進していただければと思います。

平成30年度　委託研究員経験者の声

育英西中学・高等学校（奈良県）　長谷川 成実　先生

研究テーマ

問題発見力・解決力を身につける授業
（シナジータイム）の体系化

Q：委託研究員の制度をどこで知りましたか

所属長からのアナウンス

他の学校の先生から教えて頂いた

Q：委託研究員に応募した理由をお聞かせください

本校の取り組みを体系化したいということと、本校での取り組みをお伝えすることで、私学全体、また、日本の教育をより良いものに出来ればいいなと思い応募致しました。

Q：研究活動を通じて生徒・学校・自分にとって良かった点はありましたか

本校の課題が見える化できた。

全国の先生方とのつながりが出来たこと。

生徒が生き生きと活動する機会が増えたこと。

Q：委託研究員としての1年を終えての感想をお聞かせください

この研究を通して、私自身の考え方や想いを自分自身で振り返ることができた。なぜ、教師という職を選んで私は生活しているのか考えることで、私がやりたいと思っていることが自分自身で整理出来、生徒にどのような関わりをすることが効果的かを考えることが出来た。この様な機会を頂きありがとうございます。

Q：次年度以降の委託研究員にメッセージをお願いいたします

この様な学ぶ機会はとても貴重だと私は思います。また、この学びが自分のためだけでなく、私たち教員は人のために活きます。より良い日本にしましょう！

平成30年度　委託研究員経験者の声

都城東高等学校（宮崎県）　片岡 伸児　先生

研究テーマ

専門教育活動における
ディープアクティブ・ラーニング

Q：委託研究員の制度をどこで知りましたか

職員室内の回覧

Q：委託研究員に応募した理由をお聞かせください

教務部長として教育課程等のカリキュラムマネジメントを通して、学びから遠ざかろうとする生徒たちのために、何かできることはないかと考えていたからです。

Q：研究活動を通じて生徒・学校・自分にとって良かった点はありましたか

まず、この研究活動により、本校が取り組んだ活動の振り返りができたという事です。また、生徒が県や九州地区において表彰される活動に繋がったことは想定外でした。学校にとっても良かったと思います。私にとっても様々な文献や資料に触れる契機となり、アクティブラーニングについて深く思考することができました。

Q：委託研究員としての1年を終えての感想をお聞かせください

とりあえず、ホッとしています。しかし、この研究をきっかけとして、また様々な疑問やアイデアが浮かんできています。次は「普通教科における生きる力を育む教育とは何か」ということについて、研究を進めていきたいと考えています。

Q：次年度以降の委託研究員にメッセージをお願いいたします

1年間を終えていえることは、あくまでも研究であり、研究は新たなる課題発見の過程であるため、失敗を恐れずに果敢にアイディアを実践する姿勢を大切に取り組んでほしいと思います。

平成30年度　委託研究員経験者の声

鹿児島育英館中学・高等学校（鹿児島県）　吉田 美和子　先生

研究テーマ

CLIL要素を取り入れた
アクティブラーニングの充実

Q：委託研究員の制度をどこで知りましたか

元委託研究員からの紹介

Q：委託研究員に応募した理由をお聞かせください

普段感じている不安や疑問などに取り組むため。普段の業務に追われて不安をそのままにしていたので、そこに向き合い取り組むきっかけとしたかったため。

Q：研究活動を通じて生徒・学校・自分にとって良かった点はありましたか

普段、指導をする中で感じていたことを整理して、周りの教員とも共有することができた。

Q：委託研究員としての1年を終えての感想をお聞かせください

紀要を書いたり発表の準備など大変なこともあったが、自らの指導を振り返って研究することで、自分（自校）の現状が把握でき今後の展望ができた。今後も授業の現場での自分の指導技術と客観的に振り返る機会をもっていきたいと思います。

Q：次年度以降の委託研究員にメッセージをお願いいたします

計画的に取り組むと普段の業務と両立できると思います。忙しくなるのは間違いありませんが、生徒たちのためにも研究活動にぜひ取り組んでみてください。

委託研究員研究成果報告会について

委託研究員研究成果報告会は、毎年２月～３月中に２日間に分けて実施されます。毎年多くの私学関係者及び教育関係者が出席します。

昨年度は特定研究テーマである「先進的な学習方法（アクティブ・ラーニングやICTなど）に関する実践研究が中心でした。

全国各地の委託研究員が写真や動画を用いるなど、工夫を凝らして各校での取り組みの様子を発表していました。

委託研究員はもちろん、報告会に出席した傍聴者からも積極的な質問が飛び交います。

委託研究員は自らの実践に関する省察を行い、参加者は他校の取り組みを知ることで知見を深めることが出来ます。

小学校・中学校・高等学校、それぞれの校種の先生が集まるだけでなく、委託研究員が専門とする教科・科目も様々です。自分が専門とする教科・科目以外の発表を聞くことにより、多くの刺激を受けることが出来るのも報告会ならではの光景です。

研究成果報告会に参加するメリット

1. 他校の実践を知ることが出来る。
2. 自校に持ち帰ってすぐに活かすことのできる取り組みを知ることが出来る。
3. 多様な校種・他教科の取り組みを学ぶことが出来る。
4. 他校の先生との繋がりを作ることが出来る。

2019（令和元）年度委託研究員　研究題目（研究領域/学校名/研究員名 ※順不同・敬称略）
法教育を中心とした道徳教材の開発　（道徳教育/立命館慶祥中学・高等学校/西島卓）
「CLIL」を用いた英語教育の実践とその効果　（英語教育/札幌北斗高等学校/中原康雄）
国語科探究学習の実践による課題解決能力の育成（国語教育/聖和学園高等学校三神峯キャンパス/佐々木由佳）
「主体的・対話的で深い学び」につながる、構造化された単元の問の検証・評価 （世界史教育/立教新座中学・高等学校/荒井雅子）
アカデミック・ライティング指導実践　（英語教育/市川中学・高等学校/山本永年）
探究的な学びの基盤づくりに向けた実践研究（探究学習の条件整備/跡見学園中学・高等学校/和田俊彦）
PBL型授業で獲得する主体性と社会貢献意識（物理）（物理教育/八王子実践中学・高等学校/藤枝尉将）
「主体的・対話的で深い学び」を目指した光の授業（理科教育/法政大学中学・高等学校/川島健治）
新しい古文学習　（国語教育/早稲田大学系属早稲田実業学校中・高等部/中矢由花）
第二外国語を扱う私立小学校間の連携強化に向けた取り組み　（国際理解・外国語教育/光塩女子学院初等科/茂木俊浩）
英語学習における「対話的学び」のあり方が「主体的で深い学び」に与える効果 （中高一貫教育/名古屋女子大学中学・高等学校/サルバション有紀）
SDGsで変える学校行事の実践研究（地域との関わり方/星城中学・高等学校/澤田満）
国際的なSTEM/STEAM教材の考察と実践　（技術教育/同志社中学・高等学校/沼田和也）
数学の能動的学習を促す授業の展開　（数学教育/東山中学・高等学校/山本晃弘）
高等学校国語科に求められる学力観に対する一考察（国語教育/洛星中学・高等学校/松本匡平）
体育科におけるICT活用の有効性　（体育教育/立命館宇治中学・高等学校/北川智香子）
地域の魅力再発見!―身近な歴史遺産を活用して、新たな価値を創造する授業モデルの開発― （アクティブラーニング/同志社国際中学・高等学校/佐藤靖子）
RME理論に基づく授業のデザイン　（数学教育/関西学院千里国際中等・高等部/小川達也）
「主体的・対話的で深い学び」を通じ、生徒の賜物を育む探究学習の教育効果に関する研究 （総合的な学習の時間・探究学習/清教学園中学・高等学校/南百合絵）
探究型ホームルーム活動による地域貢献と地域活性化の研究と実践（ホームルーム教育/大商学園高等学校/井上大輔）
主体的・対話的で深い学びを通じた探究型英語授業　（英語教育・ICT教育/初芝富田林中学・高等学校/岡田惇志）
理科学習での表現力向上のためのeラーニングコースの開発（理科教育・ICT教育/関西大学初等部/孕石泰孝）
持続可能なCLIL型授業モデルの構築　（グローバル教育/雲雀丘学園中学・高等学校/髙砂千聡）
生徒の学びを支える言語能力の育成　（学習指導/百合学院中学・高等学校/内橋朋子）
非連続テクストを用いた「現代の国語」の授業デザイン（教育方法論/灘中学・高等学校/井上志音）
教わる防災教育から考える防災教育へ（防災教育・探究授業/神戸弘陵学園高等学校/細淵清貴）
高等学校における統計的思考を育成する統計スキルの教科横断的な分類（統計教育/西大和学園中学・高等学校/光永文彦）
化学実験におけるICT機器を活用した主体的・対話的で深い学びのある授業のための実践研究 （理科教育/高水高等学校・付属中学校/佐伯大介）
「日本史探究」・「総合的探究の時間」へとつなぐ、現行指導要領下の教科指導の実践的研究 （地歴科教育/愛光中学・高等学校/寺崎仁樹）
高等学校における物理教育と数学教育の接続（理数教育/明光学園中学・高等学校/島ノ江純）

※報告日時は2019年12月中に決定いたします。詳細は当研究所HPをご覧ください。

一般財団法人 日本私学教育研究所

〒102-0073　東京都千代田区九段北4-3-8　市ヶ谷UNビル6階

TEL　03-3222-1621　FAX　03-3222-1683　日本私学教育研究所HP　http://www.shigaku.or.jp/

2019（令和元）年度　委託研究員研究成果報告会のご案内

●日時　　令和2年3月14日（土）および3月21日（土）の2日間

両日とも10時～17時20分　※1日のみ、部分参加も可能です。入退室自由

●会場　　主婦会館プラザエフ（東京都千代田区六番町15/ＪＲ地下鉄四ッ谷駅　徒歩1分）

〒102-0085　東京都千代田区六番町15
JR「四ッ谷駅」麹町口 徒歩1分
東京メトロ丸ノ内線「四ッ谷駅」1番出口 徒歩3分

◆【第１回　令和２年3月14日(土)】　　７階　「カトレア」

9:30	10:00	10:20							17:20
受付	開会式	研究成果報告 A			昼食	研究成果報告 B			質疑応答・講評・閉会式
		No.1～3	休憩	No. 4 ～7		No.8～11	休憩	No.12～15	

◆【第2回　令和２年3月21日(土)】　　９階　「スズラン」

9:30	10:00	10:20							17:20
受付	開会式	研究成果報告C			昼食	研究成果報告D			質疑応答・講評・閉会式
		No.16～18	休憩	No.19～22		No.23～26	休憩	No.27～30	

※報告順は未定です。2019年12月中に改めて当研究所ホームページ(http://www.shigaku.or.jp/)でお知らせいたします。

※昼食のご用意はいたしませんので、近隣の飲食店をご利用ください。なお、昼食時間は13:00～14:00を予定しておりますが、報告人数などにより変動する場合がありますのでご了承ください。

※運営上の都合により、一部日程が変更になる場合もございますので、予めご承知おきください。